

子どもたちの 「学び」と「育ち」を見守る

全日本私立幼稚園連合会 会長 香 川 敬



新年にあたり、全ての子どもたちの健やかな成長と、全国八千の私立幼稚園及び認定こども園の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

先日、ある園を訪れて教室に入った途端、何かいつもとは異なった感覚が生まれ、その理由が分かるまでに、しばらく時間がかかりました。そこにあったのは、明るく、元気な、少しばかり賑やかな声に溢れた教室ではなく、子どもたちのささやき声、優しい語り掛けの姿、安堵の表情に満たされた温かな穏やかな空気でした。保育者と子どもたち、子どもたち同士の内、安心して「依存」できる関わりがそこにある。こうした、身体をゆったり開いて、他者の声を聴く空間が、子どもたちのゆるやかな「自立」を育んでいくのだと、その時に改めて気付かされた次第です。

経済財政運営と改革の基本方針 2017 が示され、私たちはより質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供に、力強く取り組んでいけることになりました。

そのために、それぞれの園における教育課程の編成、見直しに向けて、「私の園ならではの」「私のクラスだからこそ」新しい視点を加えていただきたいと思います。

「子どもが子どもらしく遊びくらし、自己実現する」ような教育・保育の時間を設定し取り組んでいくために、まず、幼児の「遊び」の教育的意義について全教職員が想いを語り合い、実践を通じた理論へのアプローチを試みるのも一つの方法です。文化創造、人間らしい生き方についての学び、遊びの徹底から生まれる「厳しいまじめさ」等のキーワード

にも是非ふれてほしいと思います。

教育課程に設けられた「遊び」の中で生まれる工夫や失敗、熱中、のめり込み等々は、子どもたちに思考や協働の機会を生み出し、その場は「子どもが自分と他人に出会う地平」となります。協働して遊びに没頭する中で、子どもたちは知恵を共有し、互いの信頼や敬愛を深めていくのです。

また一方で、子どもたちのこうした姿や園の風景を、保護者や地域の人々に開いていく場づくりも重要になってきます。「我が子」だけを見つめる目から、園全体、社会全体の教育を意識する「公共的な意識」を持つ目への変容を求めていくことは、「社会に開かれた教育課程の実現」につながっていくはずで

もとより、教育課程の編成・実施の中核的な役割を担うのは、まぎれもなく保育者自身です。子どもたちの表情、空気の動き、声音を、敏感に、やわらかな感性を働かせて捉えながら、保育を進める。また、そういう視点から保育を振り返り、見直していくことの必要性に気付く。そして、異なった教育観を持った保育者たちの交流によって、互いに育ち合う関係が園の中に生まれていく。そのような土壌が育まれていくことを切に願っているところです。

幼稚園での教育は、常に、子どもを真ん中に、子どもの自発性や主体性と、保育者の意図・指導との調和の中で織りなされる営みでありたいと考えます。この幼稚園での学びを、家族や地域の人々との交わりや文化とのふれあいによる自己実現へと拡げながら、育ちを見守りたいものです。

(山口県防府市・鞠生幼稚園)